



平成 24年 12月期 第 1 四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

平成 24年 5月 11日

上場会社名 ラクオリア創薬株式会社 上場取引所 大
 コード番号 4579 URL <http://www.raqualia.co.jp/>
 代表者（役職名）代表取締役（氏名）長久 厚
 問合せ先責任者（役職名）経理担当執行役員（氏名）堀井 三四郎（TEL）0569-84-0700
 四半期報告書提出予定日 平成 24年 5月 14日 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

（百万円未満切捨て）

1. 平成 24年 12月期第 1 四半期の業績（平成 24年 1月 1日～平成 24年 3月 31日）

（1）経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年 12月期第 1 四半期			658		652		653	
23年 12月期第 1 四半期	602		14		14		14	

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年 12月期第 1 四半期	49.25	
23年 12月期第 1 四半期	1.49	

（2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年 12月期第 1 四半期	7,781	7,544	97.0
23年 12月期	8,379	8,174	97.6

（参考）自己資本 24年 12月期第 1 四半期 7,550百万円 23年 12月期 8,203百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第 1 四半期末	第 2 四半期末	第 3 四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年 12月期		0.00		0.00	0.00
24年 12月期					
24年 12月期（予想）		0.00		0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 平成 24年 12月期の業績予想（平成 24年 1月 1日～平成 24年 12月 31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通 期	1,631 ～ 2,171	139.1 ～ 218.3	1,666 ～ 1,168		1,647 ～ 1,148		1,700 ～ 1,202		128.20 ～ 90.64

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

4. その他

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計処理の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年 12月期 1 Q	13,267,200株	23年 12月期	13,267,200株
期末自己株式数	24年 12月期 1 Q	株	23年 12月期	株
期中平均株式数(四半期累計)	24年 12月期 1 Q	13,267,200株	23年 12月期 1 Q	9,267,200株

四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。なお、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了していません。

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績の予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

添付資料の目次

1．当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する定性的情報	2
(2) 財政状態に関する定性的情報	3
(3) 業績予想に関する定性的情報	3
2．四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第1四半期累計期間	5
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	6
(4) 継続企業の前提に関する注記	7
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する定性的情報

全般的概況

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、昨年の東日本大震災の影響による停滞から徐々に回復の兆しが見られるものの、欧州債務危機の継続、海外景気の減速、円高の長期化等により、国内の経済環境は今後も予断を許さない状況にあります。

製薬業界におきましては、世界の成熟市場では、医療制度改革などを背景に成長が鈍化することが予想される一方、新興市場では、中間所得者層の急速な拡大による大きな成長機会が見込まれ、各社戦略の見直しを迫られております。また同時に、大型新薬の特許切れが相次ぐ、いわゆる「2010年問題」により、大幅な収入減少の問題にも直面しております。このため製薬企業間では、新たな収益源となる革新的な新薬開発を巡って競争が激しくなっております。

このような環境下において、当社は開発化合物の継続的な創出、研究開発ポートフォリオの拡充及びそれら開発化合物の導出を目指し、研究開発活動及び営業活動に積極的に取り組んでまいりました。

事業面では、医薬候補品等の導出を目指し、新規顧客の開拓を行うとともに、国内外の導出候補先と導出交渉を継続いたしました。当第1四半期累計期間中の契約締結には至りませんでした。研究開発面では、探索段階、開発段階の各プロジェクトともに、概ね計画どおりに推移し、特に5-HT_{2A}部分作動薬(RQ-00000010)プロジェクトでは、欧州における臨床第1相試験の実施先の選定等、臨床試験開始に向けての準備が進捗いたしました。

以上の結果、当第1四半期累計期間の業績は、事業収益 百万円（前年同四半期は60百万円）、営業損失658百万円（前年同四半期は営業利益14百万円）、経常損失652百万円（前年同四半期は経常利益14百万円）、四半期純損失653百万円（前年同四半期は四半期純利益13百万円）となりました。なお、事業費用の総額は658百万円（前年同四半期比12.0%増）であり、そのうち研究開発費は43百万円（前年同四半期比19.2%増）、その他の販売費及び一般管理費は227百万円（前年同四半期比0.4%増）となりました。

研究開発活動

当第1四半期累計期間における研究開発費は、43百万円であり、また、当第1四半期累計期間における研究開発活動の状況は、次のとおりであります。

(A) 探索段階

過敏性腸症候群（IBS）を主たる適応症とした5-HT_{2A}拮抗薬及びCB2作動薬のプロジェクトでは、特定された化合物について、ラット及びイヌでの初期安全性評価を終了しました。

また、機能性胃腸症（FD）を主たる適応症としたモチリン受容体作動薬のプロジェクトでは、特定された化合物について、有効性の確認及び初期安全性評価を引き続き進めました。

また、神経因性疼痛を主たる適応症としたN型カルシウムチャネル遮断薬のプロジェクトでは、薬理評価を継続して実施するとともに、他の適応症についても検討を進めました。

同じく神経因性疼痛を主たる適応症としたTRPM8遮断薬のプロジェクトでは、新規化合物の探索を実施し、見出された化合物群の評価を開始しました。

炎症性疼痛及び神経因性疼痛を主たる適応症としたNav1.3、Nav1.7及びNav1.8を統合したナトリウムチャネル遮断薬のプロジェクトでは、化合物の最適化及び特性評価を継続して進めました。

さらに、初期のプロジェクトとして進めているM型カルシウムチャネル遮断薬のプロジェクトでは、複数の新規化合物シリーズについて、継続して特性評価を進めました。

なお、特定のイオンチャネルプロジェクトについては、有効性及び安全性の高い開発化合物の創出を目指し、平成22年12月よりEli Lilly and Company（米国）と継続して共同研究を進めております。

(B) 開発段階

a) EP₄拮抗薬（RQ-00000007及びRQ-00000008）

これらの開発化合物は、慢性炎症性疼痛、急性痛、炎症、自己免疫疾患、アレルギー及び癌等への適応の可能性があると考えております。当第1四半期累計期間においては、当社での薬効薬理試験、動物モデルで抗癌作用の評価技術を持つ研究機関との共同研究等、これらの適応症に係る薬理作用の検証に関する追加試験を引き続き実施しました。RQ-00000008については、臨床第1相試験の開始に必要な非臨床試験パッケージを揃えるために、未実施であった安全性薬理試験をGLP下で実施しました。

b) 5-HT部分作動薬 (RQ-00000009)

アルツハイマー病を適応症とした本開発化合物については、当事業年度において、アルツハイマー病に対する臨床での有効性を示唆するデータを得るため、健康成人で本開発化合物の薬理作用を確認する臨床試験の準備を進める予定であります。当第1四半期累計期間においては、臨床試験デザインの作成、治験薬製造施設の選定、臨床試験実施施設候補の評価を行いました。

c) 5-HT部分作動薬 (RQ-00000010)

胃食道逆流症 (GERD) を適応症とした本開発化合物については、当事業年度において臨床第 相試験を英国で実施する計画であります。当試験により、健康な被験者における本開発化合物の安全性及び忍容性並びに薬物動態を確認するとともに、本開発化合物の有効性を示唆する胃排出能に及ぼす影響も検討いたします。当第1四半期累計期間においては、英国へ治験申請 (CTA) を提出し、本開発化合物を初めてヒトに投与する試験 (FIH試験) の開始について、英国医薬品庁 (Medicines and Healthcare products Regulatory Agency) より承諾を得ました。

(2) 財政状態に関する定性的情報

資産、負債及び純資産の状況

(資産)

流動資産は、前事業年度末と比べ627百万円減少し、7,156百万円となりました。これは主に、有価証券が2,099百万円増加したものの、現金及び預金が2,83百万円減少したことによるものであります。

固定資産は、前事業年度末と比べ29百万円増加し、625百万円となりました。

(負債)

流動負債は、前事業年度末と比べ3百万円増加し、236百万円となりました。なお、借入金や社債等の有利子負債残高はありません。

(純資産)

純資産合計は、前事業年度末と比べ629百万円減少し、7,545百万円となりました。これは主に、四半期純損失の計上により利益剰余金が減少したことによるものであります。

キャッシュ・フローの状況

当第1四半期累計期間末における現金及び現金同等物 (以下、「資金」という。) は、前事業年度末に比べ331百万円減少し、3,545百万円となりました。

当第1四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により使用した資金は、733百万円 (前年同四半期は476百万円の使用) となりました。これは主に、税引前四半期純損失652百万円を計上したことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により獲得した資金は、395百万円 (前年同四半期は0百万円の使用) となりました。これは主に、有価証券 (譲渡性預金) の取得により1,100百万円を支出したものの、定期預金の払戻により1,500百万円の収入があったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動による資金の増減はありませんでした (前年同四半期も同様) 。

(3) 業績予想に関する定性的情報

平成24年12月期の業績予想については、当初の予想どおりに推移すると見込んでおり、平成24年2月16日に公表いたしました業績予想に変更はございません。

なお、新たな導出先からの契約一時金収入が期待できるものの、導出候補先との交渉状況及び研究開発の進捗状況に依存しており、現時点では不確実性が高いため、これらの契約締結及び研究開発の進捗の遅延の可能性を考慮し、開示する予想数値には幅をもたせております。

また、当社は年次での業績管理を行っておりますので、第2四半期累計期間の業績予想については、記載を省略しております。

2. 四半期財務諸表
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成 23年 12月 31日)	当第 1 四半期会計期間 (平成 24年 3月 31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,672,312	4,840,660
売掛金	1,355	-
有価証券	-	2,099,976
原材料及び貯蔵品	45,112	48,764
前渡金	31,927	67,704
前払費用	13,842	60,638
その他	18,720	38,424
流動資産合計	7,783,270	7,156,169
固定資産		
有形固定資産	68,333	76,022
無形固定資産	26,009	23,977
投資その他の資産		
投資有価証券	427,515	451,770
その他	74,016	73,744
投資その他の資産合計	501,531	525,514
固定資産合計	595,873	625,515
資産合計	8,379,143	7,781,684
負債の部		
流動負債		
未払金	99,295	139,986
未払費用	76,911	79,861
未払法人税等	22,569	7,275
その他	5,897	9,264
流動負債合計	204,673	236,388
負債合計	204,673	236,388
純資産の部		
株主資本		
資本金	8,489,850	8,489,850
資本剰余金	3,773,850	3,773,850
利益剰余金	4,060,024	4,713,454
株主資本合計	8,203,675	7,550,245
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	29,205	4,950
評価・換算差額等合計	29,205	4,950
純資産合計	8,174,470	7,545,295
負債純資産合計	8,379,143	7,781,684

(2) 四半期損益計算書
(第1四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年3月31日)	当第1四半期累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年3月31日)
事業収益	602,086	-
事業費用		
研究開発費	361,743	431,283
その他の販売費及び一般管理費	226,289	227,302
事業費用合計	588,032	658,586
営業利益又は営業損失()	14,053	658,586
営業外収益		
受取利息	150	1,895
為替差益	5,603	2,761
その他	3,236	1,460
営業外収益合計	8,990	6,117
営業外費用		
雑損失	8,298	-
営業外費用合計	8,298	-
経常利益又は経常損失()	14,745	652,469
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失()	14,745	652,469
法人税、住民税及び事業税	960	960
四半期純利益又は四半期純損失()	13,785	653,429

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第 1 四半期累計期間 (自 平成 23 年 1 月 1 日 至 平成 23 年 3 月 31 日)	当第 1 四半期累計期間 (自 平成 24 年 1 月 1 日 至 平成 24 年 3 月 31 日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失 ()	14,745	652,469
減価償却費	4,259	5,340
受取利息	150	1,895
為替差損益 (は益)	2,482	6,448
雑損失	8,298	-
売上債権の増減額 (は増加)	383,758	1,355
たな卸資産の増減額 (は増加)	1,601	3,651
前渡金の増減額 (は増加)	34,123	35,776
前払費用の増減額 (は増加)	46,666	46,795
未払金の増減額 (は減少)	70,010	34,582
未払費用の増減額 (は減少)	1,968	2,950
その他	33,689	27,487
小計	472,629	730,297
利息及び配当金の受取額	124	904
補助金の受取額	273	-
法人税等の支払額	3,840	3,840
営業活動によるキャッシュ・フロー	476,071	733,233
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の払戻による収入	-	1,500,000
有価証券の取得による支出	-	1,100,000
有形固定資産の取得による支出	-	4,890
無形固定資産の取得による支出	409	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	409	395,109
財務活動によるキャッシュ・フロー		
財務活動によるキャッシュ・フロー	-	-
現金及び現金同等物に係る換算差額	2,482	6,448
現金及び現金同等物の増減額 (は減少)	473,998	331,675
現金及び現金同等物の期首残高	3,392,722	3,877,312
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,918,723	3,545,636

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。